

胃がん検診（内視鏡検査）を受診される方へ

胃がんとは

胃がんは、胃の壁の最も内側にある粘膜内の細胞が、何らかの原因でがん細胞になって無秩序に増殖を繰り返すことで生じるがんです。

早い段階で自覚症状が出ることは少なく、かなり進行しても無症状の場合があります。代表的な症状は、胃の痛み・不快感・違和感、胸やけ、吐き気、食欲不振などがありますが、これらは胃がん特有の症状ではなく、胃炎や胃潰瘍の場合でも起こります。このような症状がみられる場合は、検診を受けるのではなく、速やかに診察を受けてください。



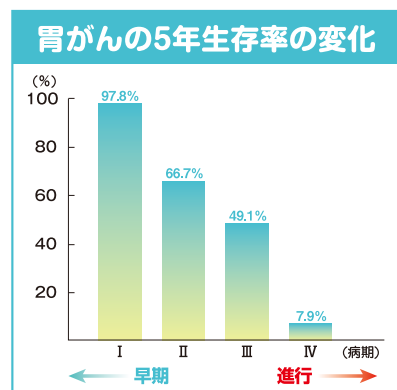
胃がんの原因

喫煙や食生活などの生活習慣や、ヘリコバクターピロリ菌の持続感染などが胃がん発生のリスクを高めると言われています。特に食生活については、塩分の多い食品の過剰摂取や、野菜、果物の摂取不足が指摘されています。

罹患率・5年生存率

40歳以降になると男性のほうが女性よりも、胃がんにかかる率やがんによる死亡率が高くなってきます。

また、胃がんは早期に発見するほど、生存率は高くなり、早期胃がんの5年生存率は97.8%となっています。



(資料: がんの統計2014)

検査方法

胃がん検診は、症状がない時期にできるだけ早くがんを見つけ、早く治療することを目的として行うものです。胃内視鏡検査では、口または鼻から内視鏡を挿入し、食道・胃・十二指腸球部を内腔から観察し、病変がないか確認します。異常がある場合には、病変の一部をつまみ(生検)、細胞の検査を行うことや色素を散布して、病変を見やすくすることがあります。

なお、生検が行われた場合は、生検について保険診療として別途請求があり、市の検診料の自己負担金の他に、保険診療の一部負担金を追加してお支払いいただくこととなります。当日は健康保険証を持参してください。

偶発症

胃内視鏡検査では、以下の偶発症が起きる可能性があります。

- (1) 胃内視鏡により粘膜に傷がつくことや、出血、穿孔（穴があくこと）
- (2) 生検による出血、穿孔
- (3) 薬剤によるアレルギー（呼吸困難、血圧低下など）
- (4) 検査前からあった疾患の悪化（症状が出ていなかった疾患も含む）

胃内視鏡検査の注意事項

「名古屋市胃がん検診(内視鏡検査)についての説明並びに同意書」をよく読み、同意の上、受診してください。

【検査前日】

- 1 夕食は、午後9時までに軽く食べてください。それ以降の食事は控えてください。
- 2 就寝まで水分は飲んでもかまいません。
- 3 内服薬、眠剤は飲んでもかまいません。

【検査当日】

- 1 検査前の食事は控えてください。
- 2 お水は飲んでもかまいませんが、飲み過ぎないようにしてください。また、牛乳などの乳製品、実のあるジュースは飲まないでください。
- 3 検査に支障が出る可能性があるため、タバコは吸わないでください。
- 4 お薬として脳梗塞、心疾患予防のため、血液をさらさらにする薬（抗凝固剤など）をあらかじめ検査前休薬していただく場合があります。検査医へご相談ください。
- 5 その他服用している薬について、必ず検査医へご相談ください。
- 6 検査当日はゆったりした服装でお越しください。
- 7 普段使用しているタオルを1本ご持参ください。

【検査後】

- 1 1時間程度、飲食は控えてください。
- 2 生検を実施された方は、当日の食事はやわらかい、消化の良いものを食べてください。
- 3 当日の過激な運動、長湯、旅行などはおやめください。

もし、検査終了後に何らかの異変が生じた場合には、
医療機関へ速やかに相談してください。